

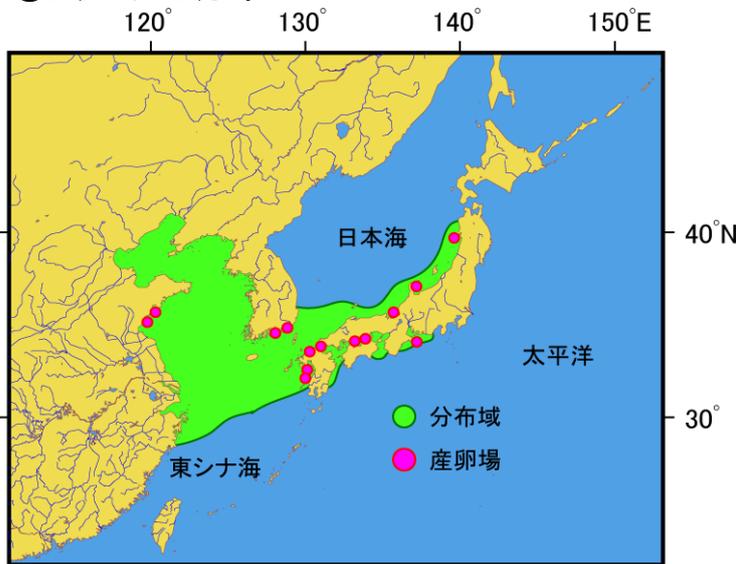
トラフグ放流魚は自然界で子孫を残している



独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所

日本沿岸におけるトラフグの資源回復を目的として各地で種苗放流が実施されています。最近の調査では、漁獲物に占める放流魚の割合が10-40%に達する例もあり、高い放流効果が現れています。(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所は、山口県水産研究センター、(独)水産大学校と共同研究を行い、DNA分析からトラフグ放流魚が自然界で子孫を残していることを初めて明らかにしました。

①トラフグの分布

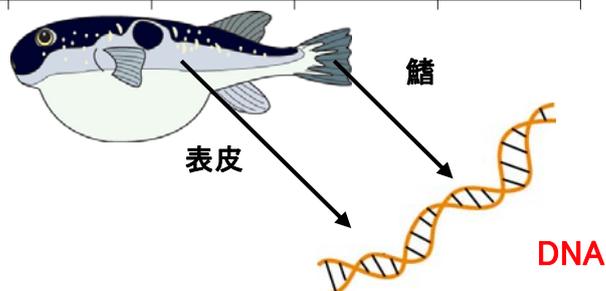
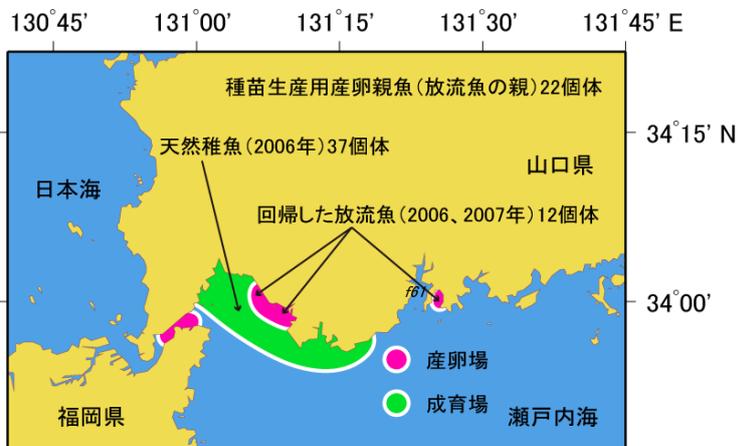


③放流魚は子孫を残しているのか？

放流魚には標識が付いているので判別できますが、放流魚が子孫を残していてもそれらには標識が付いていないので、これまで調査することができませんでした。

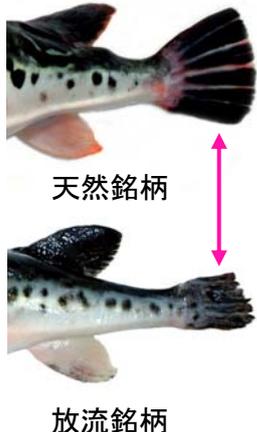
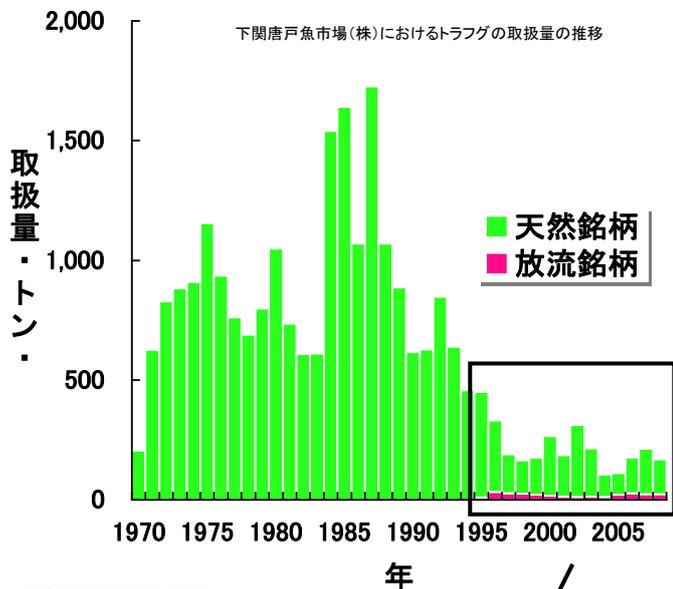
④DNA分析

瀬戸内海の山口県沿岸では近年、産卵親魚群に高い割合で回帰した放流魚が混入しています。そこで、この海域を対象にDNA分析を行いました。

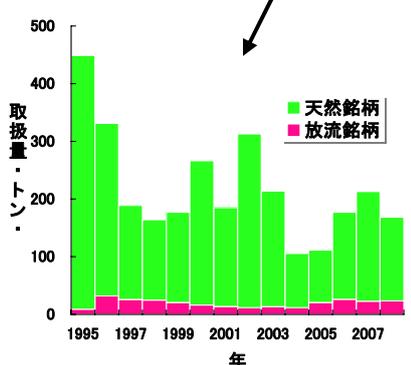


DNAの組み合わせから親子関係を明らかにしました。

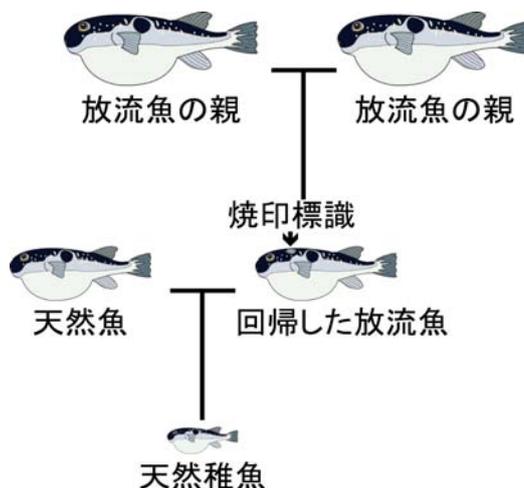
②漁獲量の減少と高い放流効果



尾鰭の変形で区別しています。



⑤3世代の血縁関係にあるグループを検出



種苗放流は資源回復に有効です。